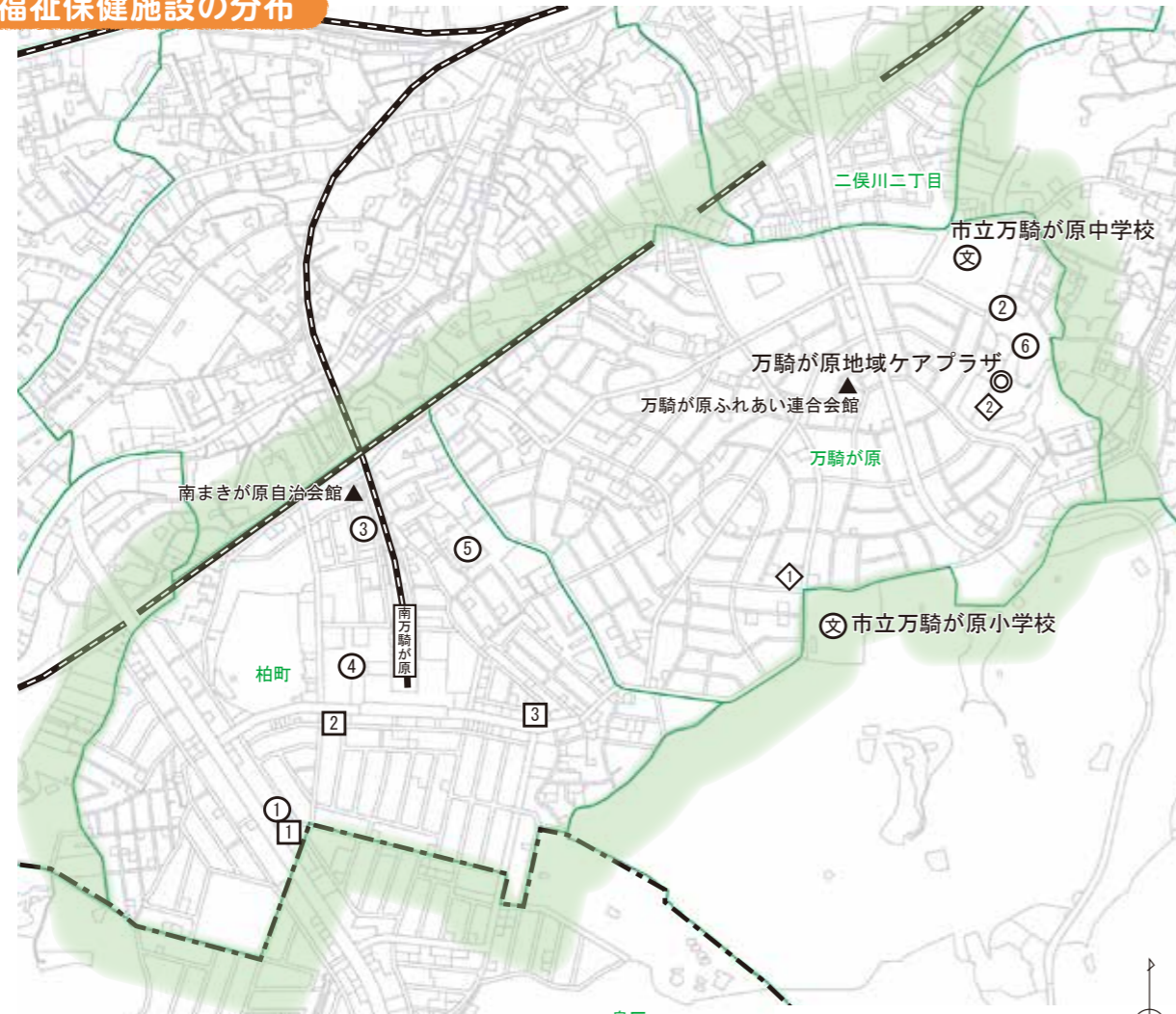


第3期の振り返り

- 地域の伝統的な活動を継続していくこと、次世代に引き継ぐことを大切に取り組みました。(教育水田ボランティアなど)
- 個人の声や個別の活動から、地域で組織として取り組むことで、様々な人が参加する地域の活動として広がり、定着した取組もできました。(あさひ漢字塾など)

【4期に向けて】
サロン活動等の活動の場や活動を支えるボランティア等の担い手を増やしていくことで、地域の見守り、支え合いの取組を広げていけるよう、情報の周知や横のつながりづくりを進めていく。

地域福祉保健施設の分布



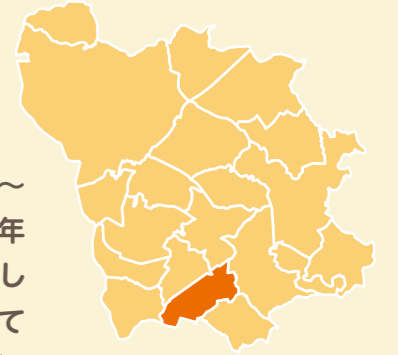
実際の地区範囲は、町・丁目単位とは限らず地図上に正確に表すことは困難なため、おおよその範囲で表現しています。地域の状況を把握するための参考データとしてお取り扱い下さい。

背景図：横浜市都市計画基礎調査

子ども施設	高齢者施設	障害者施設
<ul style="list-style-type: none"> ◆認可保育所 ① 横浜市立柏保育園 ② まきが原愛児園 ③ のぞみ保育園 ◆グローバルキッズ南万騎が原園 ◆幼稚園 ⑤ 柏幼稚園 ⑥ まきが原幼稚園 	<ul style="list-style-type: none"> ◆小規模多機能居宅介護 ◇ みなみ万騎が原 ◆介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) ◇ グリーンサイド清盛 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動ホーム ① サポートセンター連(れん) ◆就労支援施設 ② 横浜西部就労支援センター ③ 【通】おしゃれ館あおば
<p>【入】：入所施設 【通】：通所施設 【児】：障害児施設</p>		

第4期 きらっとあさひプラン

万騎が原 地区

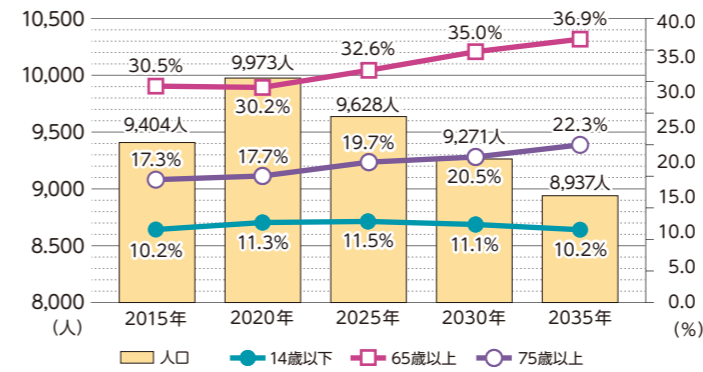


万騎が原地区は、帷子川の支流である二俣川の南側丘陵地を、昭和30～40年代にかけて開発された、戸建て住宅を主体とした住宅地です。昭和50年代には、相鉄いずみ野線開通により南万騎が原駅周辺も住宅地となりました。近年は、高齢化に伴う住替え等があり、子育て世代の転入世帯が増えています。

DATA

将来人口推計

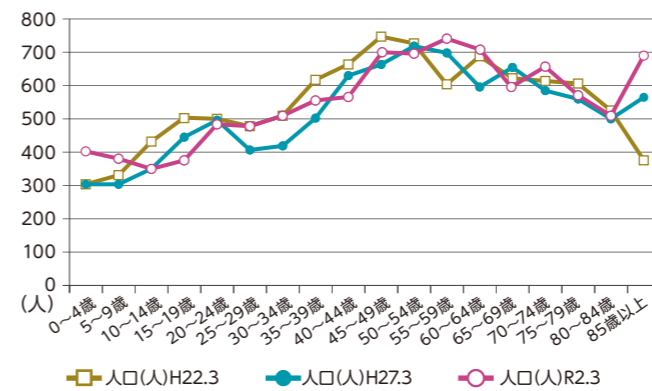
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、2020年以降は減少が推測され、65歳以上の比率は2030年頃には35%を超えます。14歳以下の比率は、ほぼ横ばいに推移することが推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には45～49歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には55～59歳となっています。また、平成22年・27年に比べて、0～9歳の5歳別人口は増加、85歳以上の人口は増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には30.5%でしたが、令和2年には30.2%となりました。この5年間で高齢化は進んでいませんが、区平均の29.2%をやや上回っています。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2 増減数	H27 構成比(%)	R2 構成比(%)	R2 区平均 構成比(%)
総人口(人)	9,836	9,404	9,973	137	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	1,060	958	1,129	69	10.2	11.3	11.6
(内0～6歳)(人)	424	419	559	135	4.5	5.6	4.9
15～64歳(人)	6,036	5,578	5,829	▲207	59.3	58.4	59.2
65歳以上(人)	2,740	2,868	3,015	275	30.5	30.2	29.2
(内65～74歳)(人)	1,233	1,242	1,248	15	13.2	12.5	13.2
(内75歳以上)(人)	1,507	1,626	1,767	260	17.3	17.7	16.0
総世帯数(世帯)	4,291	4,248	4,654	363	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.29	2.21	2.14	▲0.15	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯」、「町丁目別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目別単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

私たちが描く地区の未来図

『誰もが主役で、一人ひとりが輝けるまち』

コロナ禍で実施した打上げ花火▶



目標と主な取組

目標 A 地域のつながりづくりを進める

[主に取り組んでいくこと]

- ① 隣近所でのあいさつや声かけにより、世代を超えて、お互いに知り合う関係をつくる
- ② 一斉清掃等、日常的に必要な地域の行事を継続し、地域の関係づくりにつなげる
- ③ 多世代が参加できるイベントを開催し、住民同士のつながりをつくる



▲見守り研修会の様子

目標 B 思いやりの心を育む地域をつくる

[主に取り組んでいくこと]

- ① 登下校時の見守りや、隣近所で日常の中でできる見守りの意識を広めていく
- ② 認知症の正しい理解者、認知症サポーターを増やし、地域での見守りの目を増やしていく
- ③ 障害福祉施設等との連携を図り、活動への協力や地域の行事への参加を呼び掛ける
- ④ ジュニアボランティア体験事業や地域行事の手伝い体験などにより、将来の担い手を育成する
- ⑤ 地域の困りごとを把握するためのアンケートを自治会で実施する
- ⑥ ひきこもりがちな方や生活にお困りの方を支援する



▲サポートセンター連のアルミ缶回収



▲認知症サポーター養成講座の様子

目標 C 子どもから大人まで、誰もが参加・活躍できる場づくり

[主に取り組んでいくこと]

- ① 間口を広げて参加者や開催の機会を増やす
- ② 子育て世代が参加しやすいイベント実施による三世代交流の促進
- ③ 誰でも参加できる、小さな交流の場を増やす
- ④ 好きなことや得意なこと、経験を活かせる活躍の場(ステージ)づくりと新たな担い手発掘



▲あいうえお〜っ! クリスマス会の様子

目標 D 高齢者の居場所づくり

[主に取り組んでいくこと]

- ① ラジオ体操、ウォーキング、シニアスポーツ等を通じた健康づくりと仲間づくり
- ② 公園を会場とし、健康プレートや健康器具などを活用したストレッチや健康講座などの実施
- ③ 老人クラブや地域の小グループによるサロン活動を増やす



▲「町ぐるみ健康づくり教室」の様子

新型コロナウイルス感染症拡大の長引く影響を受けて、生活が苦しくなっている方が増加していることから、支援が必要であると感じました。そこで、令和3年3月7日、区社協の協力の下、万騎が原地区内で生活困窮者向けの食品・日用品の無料頒布及び生活相談会を開催しました。



推進体制

万騎が原地区福祉保健計画推進委員会…

【統括管理】 連合自治会、南万騎が原自治会、地区社会福祉協議会
 【実動組織】 民生委員・児童委員協議会、保健活動推進員会、スポーツ推進委員連絡協議会、青少年指導員連絡協議会、消費生活推進員連絡協議会、子ども会、老人クラブ、その他保健福祉関係ボランティア活動団体